

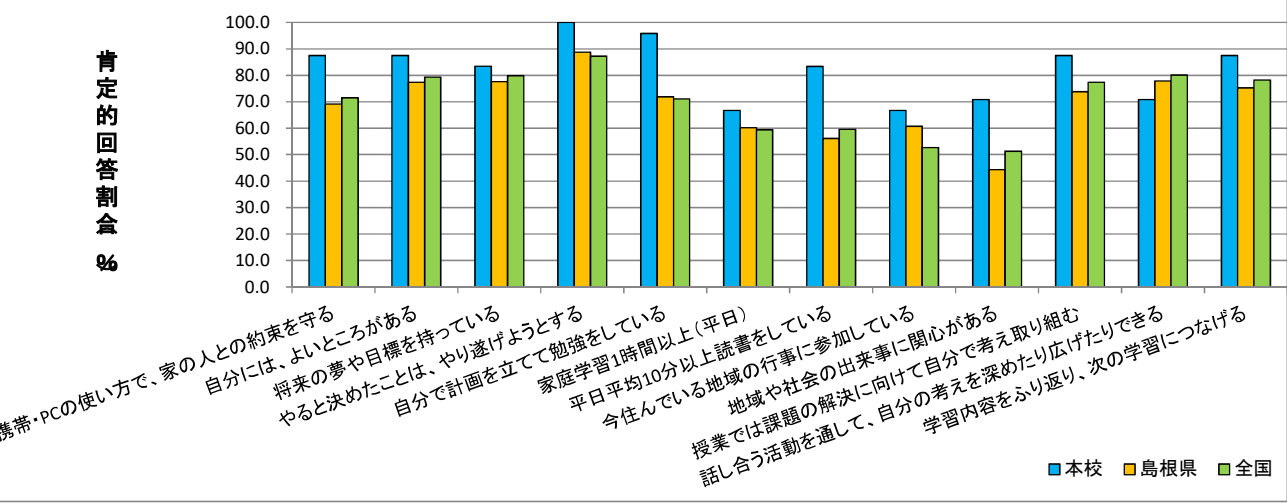
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高い。 ○「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと」の中心を捉える」設問の正答率は県平均より高い。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像する設問の正答率が低い。	・学習の中で自分の考えを書く場面の設定、感想文や、短作文づくりなどの活動を日々継続し、書くことの指導を充実する。 ・読書指導の継続、全校で取り組んでいる「ことば育成カリキュラム」の取組により言葉を豊かにし、表現を広げる素地を育む指導を継続していく。
算数	○「数と計算」領域の正答率は県平均より高い。 ●「図形」領域の正答率が低い。 ●目的とする図形を作図するためのプログラムについて考察する設問の正答率が低い。	・毎月の計算大会の問題の中に、基本的な計算問題だけでなく、図形についての問題や応用問題も取り入れていく。 ・TTによる指導やICTの効果的な利用により、児童の実態に即したきめ細やかな指導を行う。
理科	○基礎・基本的な知識や技能について問われる問題はよくできている。 ●自分の考えを文章に表して解答する問題の正答率が低い。	・実験・観察の際に、必要なデータを選んで考察したり、わかったことを文章にまとめたりする学習活動を取り入れていく。 ・話し合い活動などを通して友達との考えと自分の考えを比較する学習場面を設定していく。

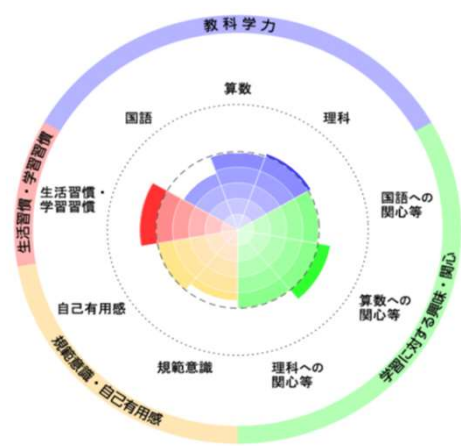
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○算数の学習が好きであると答える児童の割合が高い。 ○やると決めたことはやり遂げようとする児童の割合が多い。 ●学校生活の楽しさを十分に感じ取れていない児童が見られる。 ●理科の学習を生活に活かそうとする割合は高いが、社会に出て役立つと感じている割合が低い。	・児童の考えや思いを生かした活動を取り入れ、達成感、満足感を得ることで学校生活の楽しさが感じられるような取組をしていく。 ・QUアンケート等を活用し、個々を大切に学級集団作りに継続して取り組む。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・日々の授業において「学びを支える言葉の力を付ける授業改善」を目指し、学び合いの工夫について校内研究を進めていく。
・メディア接触について、児童への指導とともにメディアコントロールウィーク、学級懇談等で家庭への啓発を進める。

【受検者数】

21 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。